

3 ホーン岬の霊歌 その1

「俺は ^{まえ}以前 ボロ船に乗ってたんだ」とカールセン
「んで ビルっていう船乗りが死んじゃってよ
だからボロい防水シートで^{くる}包んでやって
船べりから海へ転がし落としたんだ
面白えのはよ あいつの持ち物^{いっさいがっさい}一切合財 5
船乗り仲間で山分けしたんだ
コソコソ嗅ぎ回る若造船長に
チンケな悪さがバレル前にな

^{ふるさと}故郷への船旅の途中 ある朝のことだ
(慈悲にかけてもいいぜ) 10
死んだはずのビルの影が引っ張ってたんだ
ボロい^{ミス}後^{ントップスル}檣^{フレース}の中^{ウミ}帆の操^{ウミ}桁^{ウミ}索をよ
あいつは緑の海藻にまみれ
甲板に打ち上げられたんだ
んで あいつに 言ったんだ 俺は言ってやったんだ 15
『どうした ビル なんだって船に戻ってきたんだ』

『わしゃあ 飽きちまったんだ あそこの人魚たちによ』
老いぼれビルの亡霊が俺に言うんだ
『あそこにヤクリスチャンの場所はねえんだよ
海の底の あっちの世界にやさ 20
だってよ あるもんといやあ 揺れる砂に難破船
すっかり身を食われちまった古い骨
^{ウミ}海藻の髪を長く垂らした
あの冷てえ魚みてえな女たちだ

でもって 軽快に踊るダンスもねえし 25
語り継がれた長話もねえ
^{スターフィッシュ}ヒト^{スター}デ以外に星もねえし
お月様もなけりゃ お天道様もねえ
わしには聞こえたんだ おめえの船の波切る音が
^{フレース}操^{ウミ}桁^{ウミ}索がずれてカタカタ鳴るのもよ』 30
そうしたらビルが言うんだ『さあいいか
もっと良い^{とこ}場所へ方向^{とこ}轉換だ』

でよ 日の出まであいつは甲板の辺りをうろうろして
鶏舎で雄鶏が鳴くと
煙もうもうあいつは消えちまった 35
煙もうもうあいつは行っちまった
それ以来 俺はよく考えるんだ ジャン
あの老いぼれ亡霊はどうしてるかなってね
海藻^{うみも}の髪を長く垂らした
冷てえ魚みてえな女たちとうまくやってんのかね」 40

(三木菜緒美訳)